

# 双葉小学校総合体験学習

2019年3月11日

## 今日の学習目的 :冬芽を見てみよう (雨天で予定を変更しました)

2019年03月11日(月) 9:00~12:00 3年生3クラスの皆さんが参加しました。

前回11月には、コナラ・クヌギの苗を植えました。順調に育っているように思います。

さて、今日は冬の森の中は、枯葉がいっぱい落ちています。落ち葉の秘密を考えようが、今回のテーマでしたが、雨が降って、木もれびの森で枯れ葉を集めることは、止めました。

教室では、ひそかに春の準備をしている冬芽を観察してみることにしました。

その前に木のみみつをクイズで、考えてみよう。

1) 年輪(ねりん)って、知っていますか?木が毎年大きくなっていくことが確認できる生長のあとです。

2) 日本で一番大きな木は、どこに、木のまわりは、どのくらいでしょうか?

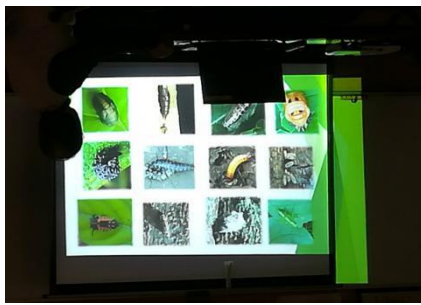
測ってきた糸は、視聴覚教室に集まった3年生全員が入れるおおきな輪になりました。



年輪って、どんな形?

測ってきた糸を伸ばしている

大きいことが分かりました。

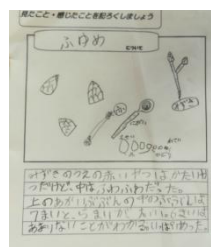
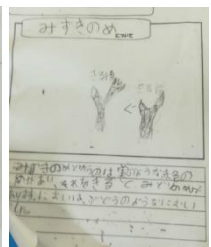
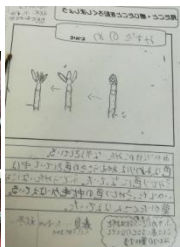


木から落ちた葉っぱは、どうなるのかな。土の上に積もります。高く積もった木の葉の中に、小さい動物が、その卵もぐっていることもあります。カブトムシやクワガタの幼虫が住んでいることもあります。もっと小さな虫たちも枯葉を食べています。枯れ葉が食べられて小さくなり、びせいぶつと呼ばれる小さな虫もいます。このように、枯れ葉は食べられたり、踏まれたり、腐って土になっていきます。そんなことを学びました。

冬の木もれびの森の木々は、春をむかえる準備を去年の冬前から始めています。花になる芽、葉っぱになる芽が、枝にあるのが、よく見るとわかります。



ハリギリ、コブシ、ニガキ、ミズキの花芽を観察しました。



中央緑地の河津桜満開

